

議 事 概 要

会 議 の 名 称	令和4年度第2回弘前市伝統的建造物群保存地区保存活用審議会	
開 催 年 月 日	令和5年3月23日(木)	
開 始 ・ 終 了 時 刻	午前9時30分から午前11時まで	
開 催 場 所	弘前市役所市民防災館3階 防災会議室	
議 長 等 の 氏 名	弘前市仲町地区伝統的建造物群保存会会長 今井 二三夫	
出 席 者	西部仲町町会長 時敏地区子育て支援員 弘前市仲町地区伝統的建造物群保存会評議員 弘前大学人文社会科学部教授 東北工業大学建築学部准教授 横浜国立大学特別研究教員 弘前市消防団第一方面団北地区団第一分団長 弘前市観光部長 弘前市建設部長 弘前市都市整備部長	北畠 昌夫 工藤 綾子 小林 敬子 関根 達人 中村 琢巳 中尾 方人 成田 利章 神 雅昭 花岡 哲 天内 隆範
欠 席 者	中部仲町町会長 青森県立弘前工業高等学校教諭 工学院大学理事長	黒瀧 儀之 岡田 俊治 後藤 治
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	教育部長 文化財課長 文化財課課長補佐 文化財課文化財保護係長 文化財課文化財保護係総括主査 文化財課文化財保護係主査	成田 正彦 石岡 博之 小石川 透 村上 真知子 北野 由美 清野 優雅
会 議 資 料 の 名 称	資料1：弘前市仲町伝統的建造物群保存地区防災計画見直し調査について 資料2：市指定有形文化財「平川家住宅」の解体保存について	

<p>会議内容</p> <p>(発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)</p>	<p>1. 開会</p> <p>2. 組織会</p> <p>3. 審議会会長あいさつ</p> <p>4. 会議 議長：今井会長</p> <p>議題：弘前市仲町伝統的建造物群保存地区防災計画見直し調査について</p> <p>事務局より説明。質疑、意見等は以下のとおり。</p> <p>中村委員</p> <p>自助・共助・公助の中で、主に町会活動を核とした「共助」が重要な柱となっているので、この調査結果を地区住民にどう周知していくのかが課題になると思う。弘前はこれまであまり災害がなかったという伝え方ではなく、昭和33年の水害や250年前の明和の地震では甚大な被害があり、周辺環境が変化した現在において発生した場合には、こういったリスクがあるということをあわせて伝えていくことが重要と考える。</p> <p>また、雪景色や冬場における公開武家住宅の利用を高めるということが雪対策としても重要と考えるので、観光部局とも協力しながら保存地区の雪景色をアピールし、雪の良さを味わってもらような取り組みを検討してもらいたい。</p> <p>中尾委員</p> <p>大きい地震の周期として250年は長いわけではないので、今後とも過去のような大地震が起こらないという保証はない。</p> <p>今回の調査では、積雪荷重を1.3mで試算しているが、この荷重分をすべて耐震補強でまかなうとかなりの補強が必要なので、雪下ろしを行うことで耐震補強を軽減することができる。耐震補強の方法についても、伝統的建造物の価値を損なわない補強方法もあるので、あわせて検討していく必要がある。</p> <p>花岡委員（建設部長）</p> <p>今冬の雪については、2月に最大積雪深120cmを記録しており、観測上8番目くらいの数字となっている。（最高は平成24年の153cm）累積の降雪量は昨年と同等の483cmであり、そこまで</p>
---	---

多い数字ではないが、短時間で急激に雪が降るとというのが近年の特徴になっている。

天内委員（都市整備部長）

気候変動の影響もあるのか、雪の降り方が違ってきていると感じている。

都市整備部で所管している立地適正化計画では、保存地区は居住誘導区域に該当している。来年、立地適正化計画の見直しがある。その中で、ハザードマップにあわせて防災指針を都市計画の中で作るよう国から示されているので、今回の防災計画についてもこの防災指針との整合を図るよう留意して欲しい。

公園緑地課で樹木の雪つりを行っているので、観光課も含めてPRなど協力していきたい。

北島委員

これまで中部・西部仲町町会には集会所がなかったが、所有者の協力を得て、町会内の空き家をコミュニティ施設や防災拠点として使用できる見込みである。

西部仲町町会の自主防災組織のメンバーは、ほとんどが町会の役員を兼ねていると同時にねぶたのメンバーでもあり、町会の役員会の場でもねぶたの話をすることも多いため、気軽に集まれる場所ができると期待している。

一方で、町会内を流れる大久保堰が氾濫した場合、町会が分断されてしまうことや、その場合に水害時の避難場所である弘前中央高校までの避難誘導をどうするのかといった課題もある。

関根委員

公開武家住宅の耐震診断結果について、旧梅田家住宅のみが著しく評点が低い、旧梅田家住宅のみ耐震補強がなされていないということか。早急な対策が必要ではないか。

→【事務局】

耐震補強については、旧伊東家住宅及び旧笹森家住宅が実施済みであり、旧岩田家住宅と旧梅田家住宅は未実施である。

中尾委員

旧梅田家住宅については、今回の調査で積雪による構造的な不具合も確認されているので、耐震診断結果の評点に現れない各部の不具合についても、あわせて検討してもらいたい。

小林委員

旧梅田家住宅の西側にサワラの木があるが、屋根よりも高くなっており、災害等で倒れた場合は建物にも大きな被害が出るのではと心配している。

工藤委員

自宅周辺の空き家については、道路の掃除や門周りの除雪などをできる範囲でやっているが、空き家の状態が長く続くのは好ましくないなので、早めに利活用されるようになってもらいたい。

北島委員

町会として有志で除雪隊をつくり活動しているが、今年の2月のような雪の量になると対応しきれない。サワラ生垣や表門の被害や空き家の除雪をどうするのかといった問題がある。自分たちで十分に除雪できる人は、日中仕事しており、自分の家のことだけで手いっぱいというのが実情であるので、有償でも除雪作業員を手配するなどマンパワーについて検討してもらいたい。

成田委員

消防設備の点検状況はどうなっているか。

→【事務局】

公開武家住宅等に設置している消防設備は年2回点検している。うち、1回は放水試験も行っている。

除雪作業のマンパワーについて、消防団としてもできる範囲で協力したいと考えている。実際に、消火栓の除雪作業なども行っているなので、町会等の除雪作業だけでなく、公開武家住宅の防災設備周辺の除雪作業についても、可能な範囲で協力したい。

神委員（観光部長）

弘前城情報館では、250年前の大地震が積雪期に重なり被害が大きくなったため、以降、雪下ろしが奨励されるようになったという歴史を紹介している。こういった話を観光客に紹介しながら、江戸時代の格好（衣装）で雪片づけをしてもらうといった体験を有料のコンテンツとして行うということも考えられる。

さらに、空き地があるのであれば雪置き場として活用すると非常に便利ではないか。

天内委員（都市整備部長）

伝建地区ということで、防災計画においても文化財や観光の目線での話になることが多いと思うが、行政としては、地区住民の安全・安心が一番であるべきなので、市民にとっても観光客にとっても安全で使いやすい地区になるよう努めてほしい。

報告：市指定有形文化財「平川家住宅」の解体保存について

事務局より説明。質疑、意見等は以下のとおり。

今井委員長

主屋だけでなく、門や板塀、庭園なども含めた一体的な解体保存は考えているのか。庭園については、外崎亭陽の弟子が作庭したものだと考えられるので、可能であれば、あわせて保存してもらいたい。

→【事務局】

門・板塀・庭園（石・樹木）も含めて解体保存する方向で考えている。

中村委員

保存計画の見直し調査の際に、半日ほど調査させてもらったが、嘉永年間に行われた増改築のつくりが非常に複雑で、旧笹森家住宅のように宝暦年間（建築当初と推定）に復原すればよいという訳ではないと思うので、解体工事の際にも調査を行うようにしてほしい。

市内城下には、現在でも 20 件ほど武家住宅が点在している。解体して整備することは非常によいことであるが、一方で現地保存も大切であり、城下町全体として武家住宅が点在するという将来像をどう描くのか重要となる。長期的には移築復原と現地保存が両輪としてうまく機能することが必要ではないか。

関根委員

建物の解体にあたっては、当然のことであるが、建物の変遷の痕跡などの記録をしっかりと残すようにしてほしい。

北畠委員

この件については、保存地区の拠点になる施設であり、文化財建造物の活用することで新たな人の動きが生まれることも期待できるので、町会としても非常にありがたい話と考えている。具

体的に、供用開始の時期などは決まっているのか。

→【事務局】

令和5年度中に解体保存工事と整備基本計画の策定を予定している。仮に、順調に進んだとして令和6年度から建物の移築復元工事に取り掛かるとして、最短でも令和9年度までの5ヶ年を計画期間として見込んでいる。

神委員（観光部長）

観光の立場からは建物の維持管理費用をその建物でまかなえるようにする取り組みも必要と考える。文化財であるので復原が原則であることは、理解しているが例えば、宿泊もできるようにすることで収入を得られるようにすることなども検討して欲しい。

花岡委員（建設部長）

空き家対策基本計画に基づき、市内の空き家対策に取り組んでいるが令和5年度が最終年度になるため、令和6年度からの新たな計画を令和5年度中に策定する予定としている。空き家対策としては所有者への働きかけが基本になるので、引き続き、取り組んでいきたい。

また、雪対策について、保存地区は消流雪溝が整備済みであり基本的には排雪が入らない地区になっている。先ほどから「共助」が必要という話が出ているように、道路維持課で寄せ雪の支援事業や町会の雪置き場借上げ事業など「共助」を支援する事業があるので検討してもらいたい。

天内委員（都市整備部長）

弘前は藩政時代からの歴史的な趣きのある街であり、歴史的風致などを活かしたまちづくりを進めていきたいと考えている。市民にとっても観光客にとっても安心・安全で、使い勝手のいいまちづくりでなければならないと考えているので、引き続き、皆様のご指導ご協力を得ながらまちづくりに取り組んでいきたい。

5. 閉会